

アジアにおけるCSRと シビル・ソサエティの役割

2004年12月16日
CSOネットワーク
黒田かをり



アジアにおけるCSR-1

- 古くからある企業倫理の考え
- アジアの多様性
- 高度経済成長期、またはそれ以前から企業の地域や社会への貢献の重要性が高まる



アジアにおけるCSR-2

- 1997年アジア経済危機後のショック療法的な意味合い
- 新しいCSR 이슈ー
人権、環境、腐敗、ステークホルダーへの
のアカウンタビリティなど
- アジアにおけるCSRの初めての国際会議-
2003年3月、クアラルンプール
(以来、2003年だけでもCSR関連の国際会議が
4回開かれる)



アジアにおけるCSR-3

韓国、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、中国に共通して見られるテーマ

- 海外投資への市場開放
- 規制当局による高水準のコーポレートガバナンスへの取り組みの奨励
- 企業報告に対する褒章制度
- 企業の情報開示の漸進的な改善と国際基準への参加
- ISO14001など国際規格の採用
- 従来 of コーポレート・フィランソロピーから環境とCSRマネジメントの導入
- 市民社会組織の数の増加と影響力の増大
- 社会、投資家、機関投資家の環境と社会への関心の増大

出典： SRI in Asian Emerging Markets, ASrIA Reports sponsored by Sustainable Financial Markets Facility, SFMF & International Finance Corporation, IFC 2003 page.9 黒田：日本語訳責



CSOの役割

シビルソサエティからの働きかけ

- **ものをいう市民:一般市民の企業(多国籍企業)に対する不満の高まり**
インドのコカコーラに対するデモ、ナイキのCMに対する中国市民の怒り、など
- **問題特定 - 解決型NGOやそのネットワークの台頭**
インドネシアにおける違法伐採や森林破壊をやめさせるキャンペーン
- **企業と連携をしながらCSRを推進するNPOやNGOの台頭** PBSP、WWF、ワールド・ビジョン、CIなど



アジア(開発途上国)における CSRの課題

- 社会開発アジェンダとの関連
「貧困の民営化」、開発課題の多様化・包括化、
開発アクターの多様化
- 地球規模の課題に対する企業への期待の高まり
(ミレニアム開発目標の達成への責任)
- 従来の社会貢献からコミュニティの問題解決
へより深いコミットメントが求められる
- セクターを越えた連携
政府やCSOなどの期待と企業の現実とのギャップ